

私は 8 月 3 日から 4 日の東京研修で大きく成長することができ、また、自分の将来を以前よりイメージできるようになりました。

最初のディレクトフォースでは、「世界を視野に、自らを生かす」というテーマを元に笹川平和財団などの世界で活躍している方々からの話を聞き、その後質疑・意見交換をするということをしました。

まず、笹川平和財団の理事長である田中さんの講演からでした。原子力発電所での事故前の福島のモットーは「うつくしま、福島」だったのに対し、事故後の福島は「つくすしま、福島」に変わったことから、国際機関は使うものであり、知恵を出し合い助け合っていくことが大切なこと、また、発言すること、人間関係を作ることは首脳の仕事であるということ、そしてそれを補佐することが IEA(国際機関)であるということをお話ししてくれました。

次に、グループセッションで、4 人の方々のお話を聞きました。

1 人目の青木さんのお話は、若いうちに身につけておく必要のあるもののお話でした。なぜこの内容なのかというと、学生時代というものは例えると出航の準備期間なわけで、社会という大海原でどのようなことが起きているのかを知らなければならぬからだそうです。

1 つ目に必要なことは、夢中になれることを探して、それに一生懸命に取り組むことだそうです。勝ったり成功したときの喜びや、負けたり失敗したときの悔しさなどの感動を覚えられ、自分を知ることが出来るからです。音楽でもスポーツでも何でもよくて、まずやるのが大事だとおっしゃっていました。青木さんは高校時代にバスケに夢中になり、そこから学んだたくさんの経験は社会に入ってから役立っているそうです。私も今は部活のソフトテニスに夢中になっていて、自分で組み立てたセオリーが実際に成功したときの喜び、力を出し切ったけど負けてしまったときの悔しさを知っているので、この話はとても共感することができました。

2 つ目に必要なことは、五感をフル活用して物事を体験することだそうです。テレビだけでは現実を直視できないし、現実では電源を切ることも再生することもできません。「今、この一瞬」を大切に、若いうちに現実を受け止めることが高校生には必要だそうです。たしかに最近はテレビで食べ物が映っていると見た目だけでおいしいと判断して満足していますが、テレビからは匂いも味も伝わらないし、見た目がテレビどうりかもしか分かりません。自分の身をもって体験することは大切なんだと改めて実感しました。

3 つ目に必要なことは、「Why?」を探すということだそうです。例えば、「なぜ戦争は起きたのか?」や「なぜ私たちは赤信号で渡らないのか?」ということです。2 つ目の答えはルールだからかもしれませんし、自分の身を守るためだからかもしれません。きっと答えにはずれなんてなくて、考えることが大切なんだと思います。自分がさっきなぜ失敗したのかなどをひとつひとつ分析して、次こそ上手くやろうと思うことで失敗から学ぶことができ、同じ石には二度つまづかなくなるそうです。

2 人目にお話してくれたのは、海洋対策研究所で働いている前川さんでした。世界の 7 割は海で、さらにその 7 割が公海であることや、地球温暖化による海面上昇の対策などについてお話してくれました。地球温暖化による海面上昇の対策については、主に 2 つのことをおっしゃっていて、1 つ目は二酸化炭素の排出量を削減するなどの「緩和」、2 つ目は低い土地に住んでいる人が引っ越したり、家を高床式にするなどの「適応」だそうです。まだ私にはあまりピンとこなくて少し遠い話のように感じていたら、前川さんはそれに気づいたみたいで、高校生のうちとは

りあえずめげないで、友達をたくさん作り、自分の引き出しを増やすように言ってくれました。

3人目の吉田さんは、日本の素晴らしさについてお話してくれました。日本は人口が世界10位で、経済力が3位、今まで獲得したノーベル賞の数が7位、その中でも科学部門のノーベル賞獲得数が3位だそうです。アメリカなどの大国ばかり見ているが、自分たちの国である日本も十分素晴らしく、そのことに誇りを持つべきだとおっしゃっていました。

最後は、日本人と外国人との関わりについてお話してくれました。私たち日本人から見れば、外国人は自分の意見ばかり言っているようですが、実際に関わってみるとそんなわけではないそうです。逆に日本人は気を使いすぎて話のまとまりとなる部分がなく雑談になってしまい、自分の主張が伝わりにくくなるそうです。しかし日本人は国際的な会談が少し苦手なだけであって、外交が下手というわけではないそうです。もっと自分の価値観を広げ、様々なことに挑戦することが大切だとおっしゃっていました。

夕食後には OB・OG 懇談会がありました。東大生などから勉強のコツなどを教わりました。受験において大切なのは、1・2年のうちから勉強の習慣を身につけておくことだそうです。それから二高の中での順位を気にするよりも自分の点数と向き合うべきだともおっしゃっていました。

また、受験がどうこうとかではなくて、人として大切なこともおっしゃっていました。

1つ目は、見かけと実質を見極めることだそうです。授業に出席することは別にえらくないし、出席しても寝ているのでは意味がなく、その授業で何か新しいことを得られたら自分の力になるとおっしゃっていました。

2つ目は、自分が選んだことは信念を持ってやり通すことだそうです。最後まで自分を信じ続けることで、やり切ったときに達成感や充実感を味わえるのではないかと思います。

3つ目は、自分の舞台は自分で用意するものだということです。誰も自分には何も与えてくれないのだから、待っているのではなく、チャンスは自分で作り、自分で掴むものだとおっしゃっていました。私は部活ではボールを決める役割なのですが、自分のペアが相手を崩し、浮いてきた球を決めるのがいつものパターンでした。しかし、それは試合のほとんどをペアに任せて自分はイトコ取りをしているように感じました。これからは自分も攻めて攻めて攻めまくり、自分でチャンスを作っていきたいと思いました。

2日目の東大見学会は、薬学部の体験授業を受けました。正直言うと、私は体験授業の申し込みが遅れてしまい、行きたかった理学部の授業に行けなかったので残っていた薬学部に申し込みました。なので最初はめんどくさいなあと思ってしまいましたが、授業はとても面白くて奥深く、夢中になって聞いていました。授業内容は、認知症の早期発見についてでした。アルツハイマーなどの認知症は、ゴミとなったタンパク質が身体にたまり、たまった後10~20年してから症状が現れます。今までは認知症の症状が見られてから病院へ行き、薬を出してもらうという流れでしたが、そのゴミがいつからたまっているのかを調べる「診断薬」というのが開発されました。ボケが始まる前から薬を飲んで少しでも症状を抑えようとする新しい治療法があると聞いて、とても興味がわいてきました。

私は将来の職業をまだ決めることができません。でもそれは、研修前みたいに何にも興味が無かったからではなく、やりたいことがいっぱい見つかったからです。これからは自分を見つめ直して、自分にあった職業を選びたいと思います。